

第2章 自治会を取り巻く社会環境

1 自然環境

滝沢市は、県庁所在地の盛岡市の北西に隣接し、東西約14キロメートル、南北約20キロメートル、総面積182.46平方キロメートルです。

市内には秀峰岩手山を抱き、雫石川、北上川が流れ、また、田畑と山林が全面積の51.8%を占めており、雄大な自然を身近に感じることができます。

2 生活環境

滝沢市は、明治22年に滝沢村として発足し、平成12年2月15日に人口5万人を達成し「人口日本一の村」となり、平成26年1月1日に市制移行した岩手県第14番目の市です。

市内には、岩手県立大学や盛岡大学をはじめとする各種研究機関が集積しており、市の南部にはJR東日本田沢湖線が横断し、東部にはIGRいわて銀河鉄道が縦断しています。また、市の中央部には東北縦貫自動車道が縦断し、滝沢インターチェンジと滝沢中央スマートインターチェンジが設置されているため、市内を縦断する国道4号と、横断する国道46号とのアクセスが便利です。

市内の中央部では近年においても大規模な宅地開発が行われ、新築家屋が増えています。一方、空き家が増加している地域もあります。

3 人口と世帯数の推移

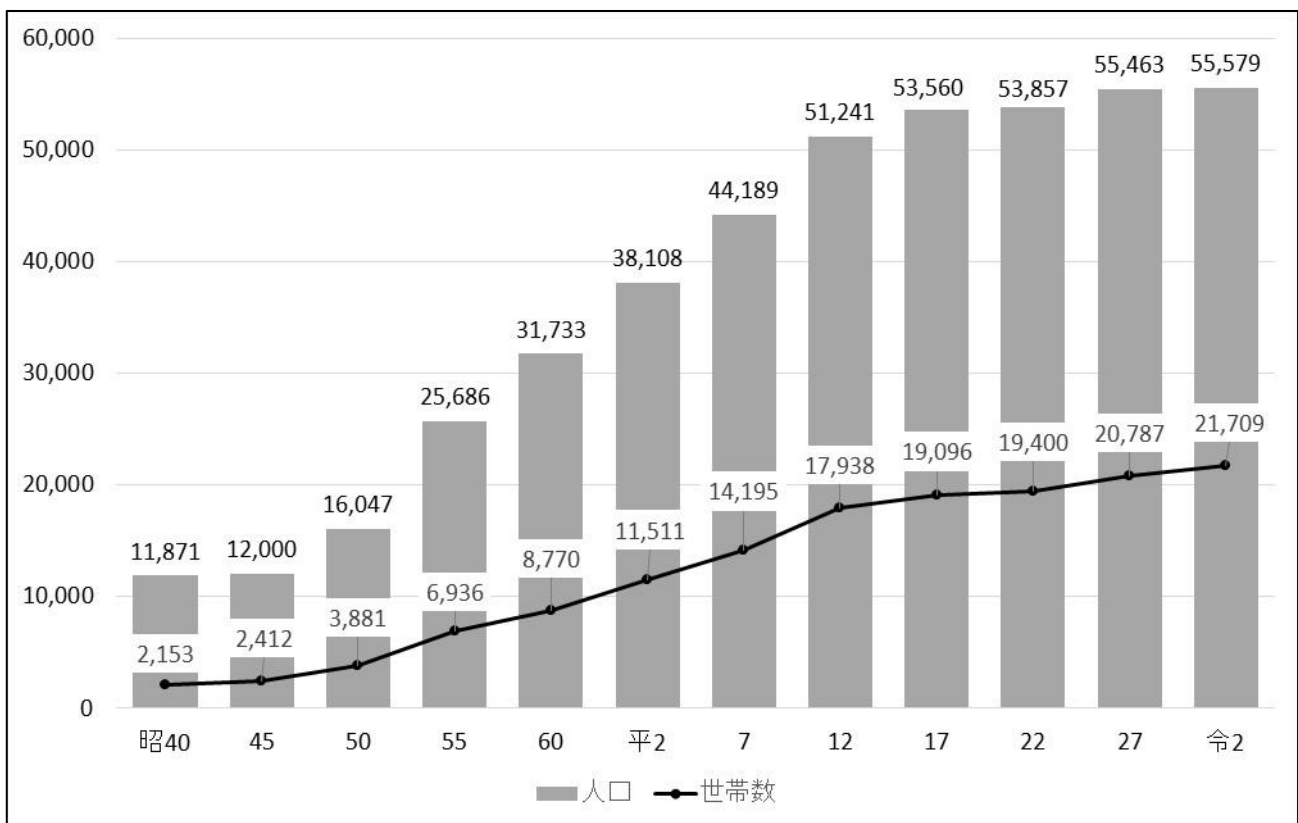
滝沢市の人口は、昭和40年代後半から住宅団地の造成が進み、滝沢市に移り住む方々が急増し、平成17年まで増加し続けていましたが、その後は人口の伸びが鈍化しており、令和2年国勢調査による滝沢市の人口は55,579人となっています。日本全体で少子高齢化が進み、人口減少を迎えているなかで、人口が減少に転じていないのは、非常に珍しい事例であるといえます。

一方、世帯数は、人口増加が横ばいとなっても増加し続け、令和2年には

21,709世帯になっています。また、人口を世帯数で割った1世帯当たりの人員数は、昭和40年には5.5人でしたが、令和2年には2.6人へと半減しています。

これらのことから、人口は増加しているものの、世帯の小規模化、核家族化などが進行しているのがわかります。

総人口及び世帯数の推移（昭和40年～令和2年）



資料：国勢調査

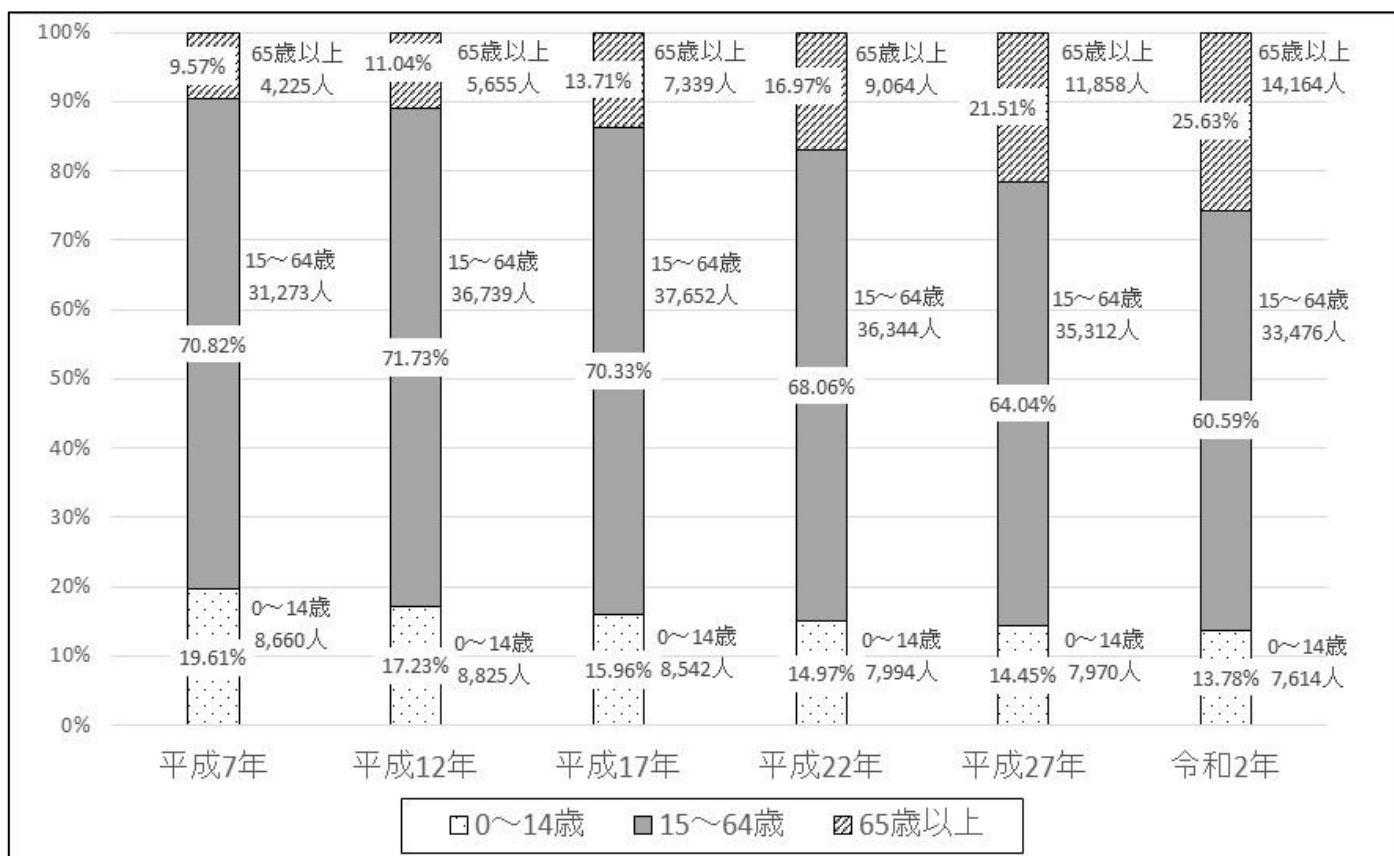
4 人口比率の推移

令和2年国勢調査による市民の平均年齢は45.5歳と岩手県下では一番低くなっています。

しかしながら、人口比率は、「15歳未満」と「15～64歳」の比率が減少している一方、「65歳以上」の比率は毎年増加しています。また、平成17年から平成22年の間に「15歳未満」と「65歳以上」の人口の比率が逆転しています。

これらのことから、総人口は増加しているものの、少しずつ高齢化が進行していることがわかります。

年齢3区分人口比率の推移（平成7年～令和2年）



※年齢不詳人口を除く。

資料：国勢調査

5 地区別世帯数の推移

ここから、市内を次の3つの地区に分け、その地区ごとに分析を行います。

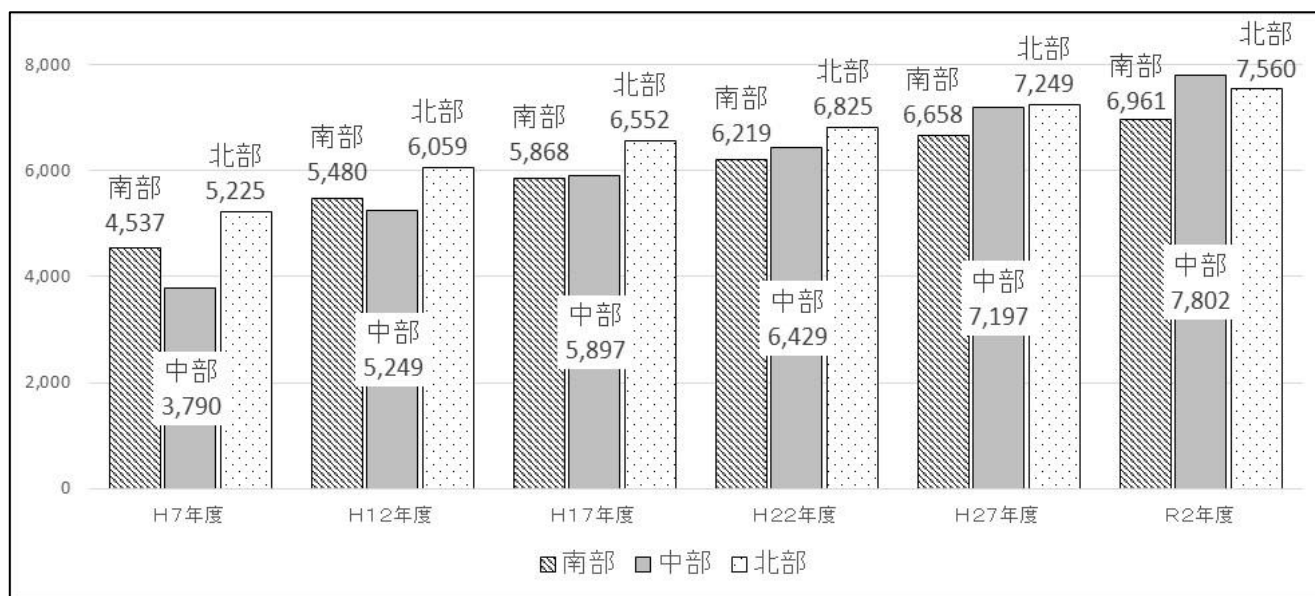
地区名と構成自治会

地区	自治会名
南部	小岩井、大釜上、大釜南、篠木、大沢、鶉飼南、鶉飼中央、滝沢パークタウン上の山、上鶉飼、鶉飼温泉、滝沢ニュータウン、姥屋敷
中部	元村南、室小路、国分、元村中央、牧野林中央、南牧野林、法誓寺、元村東元村西、元村北、あすみ野
北部	柳沢、巣子、南巣子、長根、川前、南一本木、いずみ巣子ニュータウン、北一本木

滝沢市の地区別世帯数は、どの地区も増加していますが、南部・北部地区では1.5倍の増加であるのに対し、中部地区は2倍の増加となっています。

このことから、中部地区は、他の地区に比べて宅地化が進み、多くの住宅が建設されたことにより世帯が増加している地区であることがわかります。

地区別世帯数の推移（平成7年～令和2年）



※高齢者施設や障がい者施設等の入居者を除く。

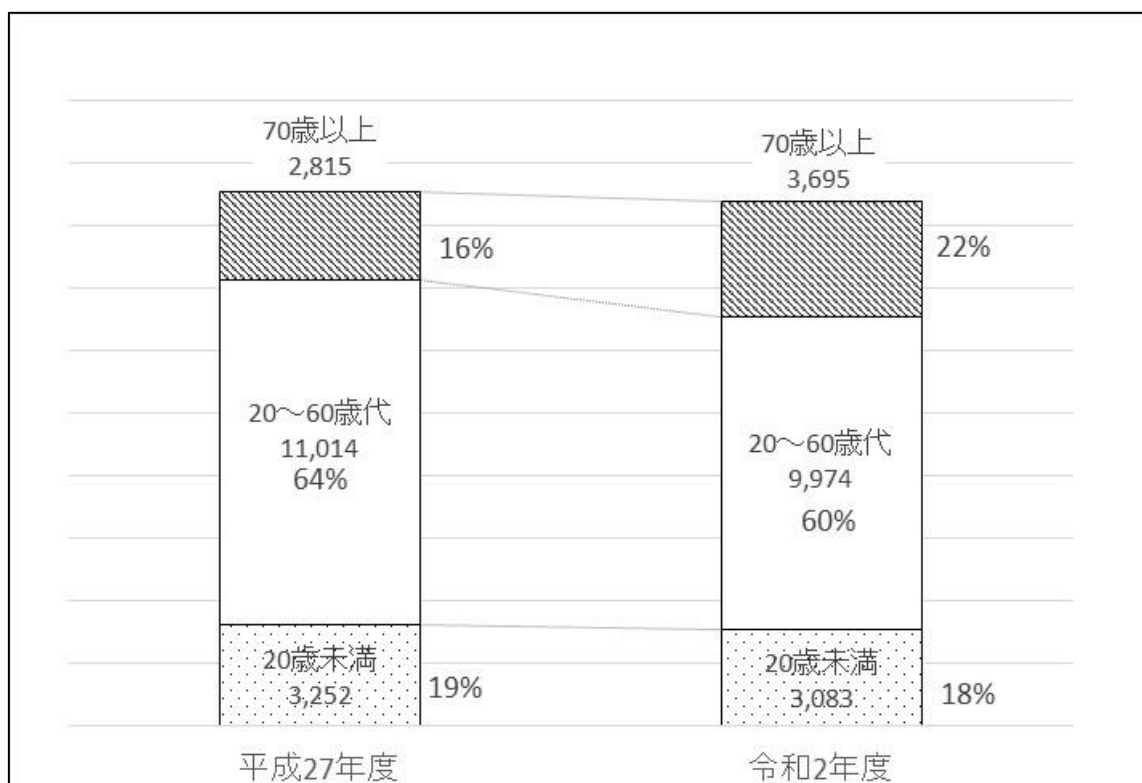
資料：地域づくり推進課「自治会別人口集計」

6 地区別人口比率の推移

南部地区

南部地区は、平成27年度から令和2年度の5年間の総人口が減少していますが、「70歳以上」の人口は増加し比率が22%となっており、3地区で最も「70歳以上」の比率が高い地区です。

また、20歳未満の人口は横ばいですが、20～60歳代の人口比率が4%低下し60%となっており、他の地区と比べ最も低くなっています。

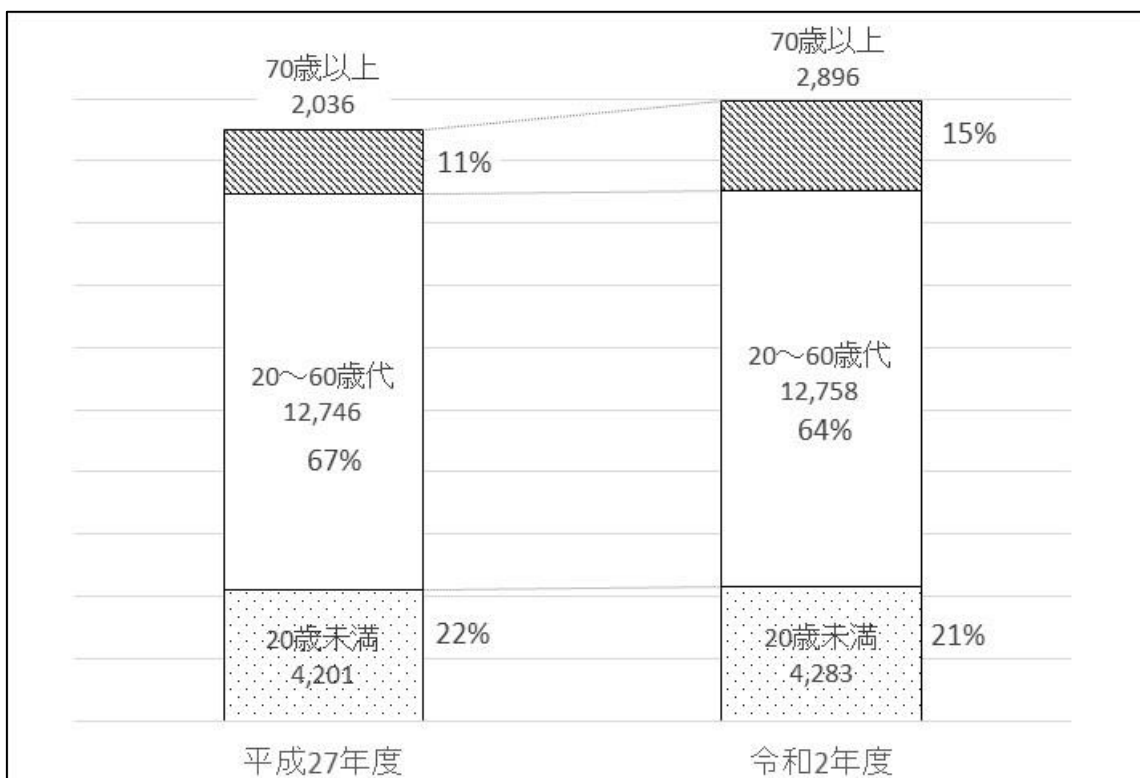


※高齢者施設や障がい者施設等の入居者を除く。

資料：地域づくり推進課「自治会別人口集計」

中部地区

中部地区は、唯一、平成27年度から令和2年度の5年間の総人口が増加していますが、「20歳未満」と「20～60歳代」の人口は、ほとんど変化がありません。「70歳以上」の人口が増加していますが、比率は3地区の中で最も低くなっています。また、「20歳未満」の人口と比率は、どちらも3地区の中で最も高くなっており、子ども世代が多く住む地域であることがわかります。

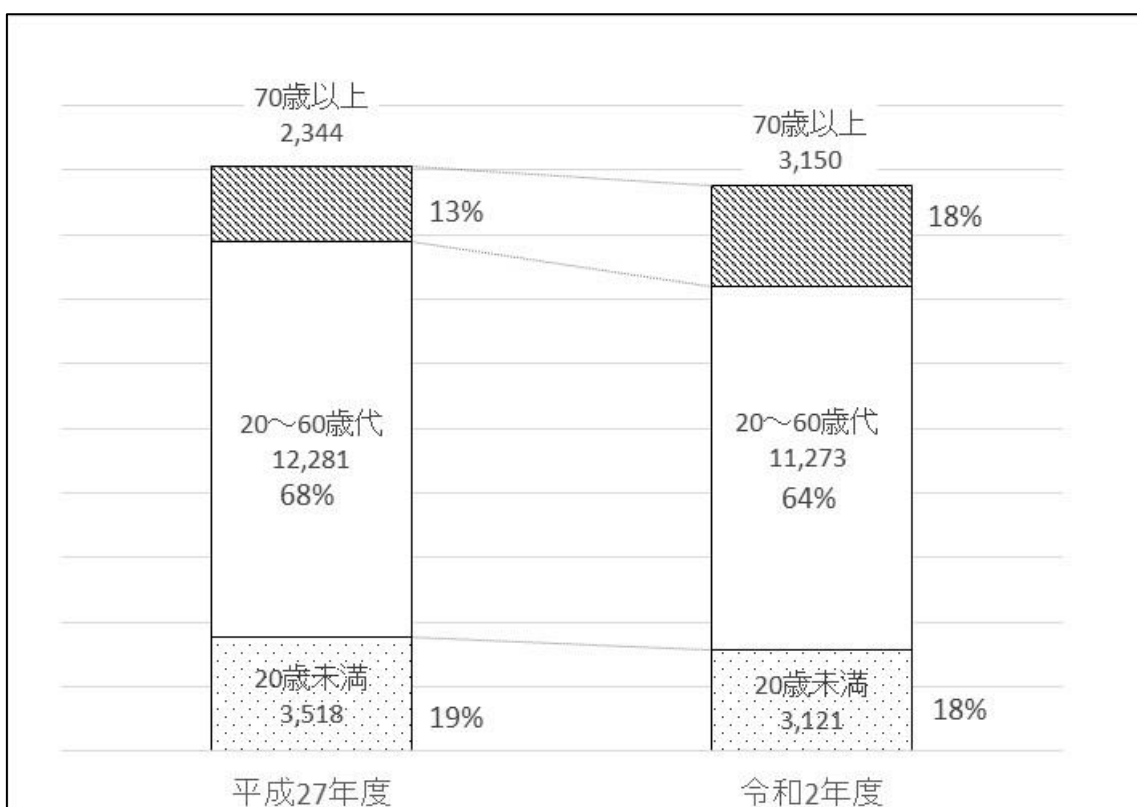


※高齢者施設や障がい者施設等の入居者を除く。

資料：地域づくり推進課「自治会別人口集計」

北部地区

北部地区は、南部地区と同様、平成27年度から令和2年度の5年間の総人口が減少していますが、「70歳以上」の人口は増加しています。「20歳未満」と「20～60歳代」の人口がともに減少していることから、今後、高齢化が進んでいくことが予想されます。



※高齢者施設や障がい者施設等の入居者を除く。

資料：地域づくり推進課「自治会別人口集計」

7 地区別年代別人口の比較

ここでは、市内3地域における平成27年度と令和2年度の年代別人口を比較してみました。

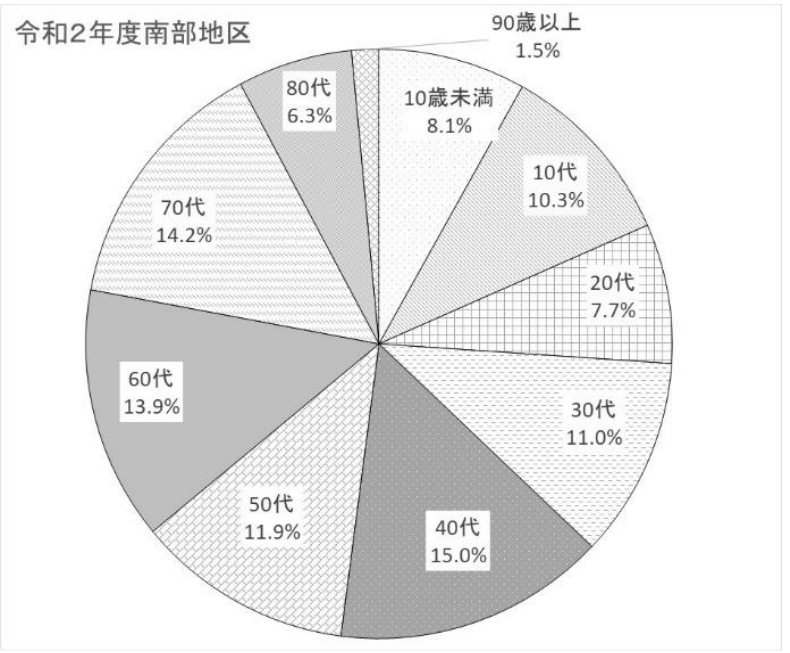
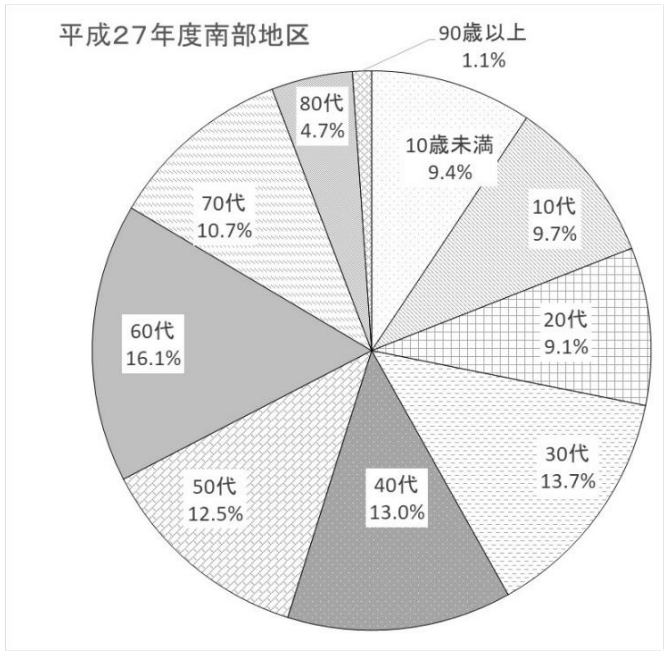
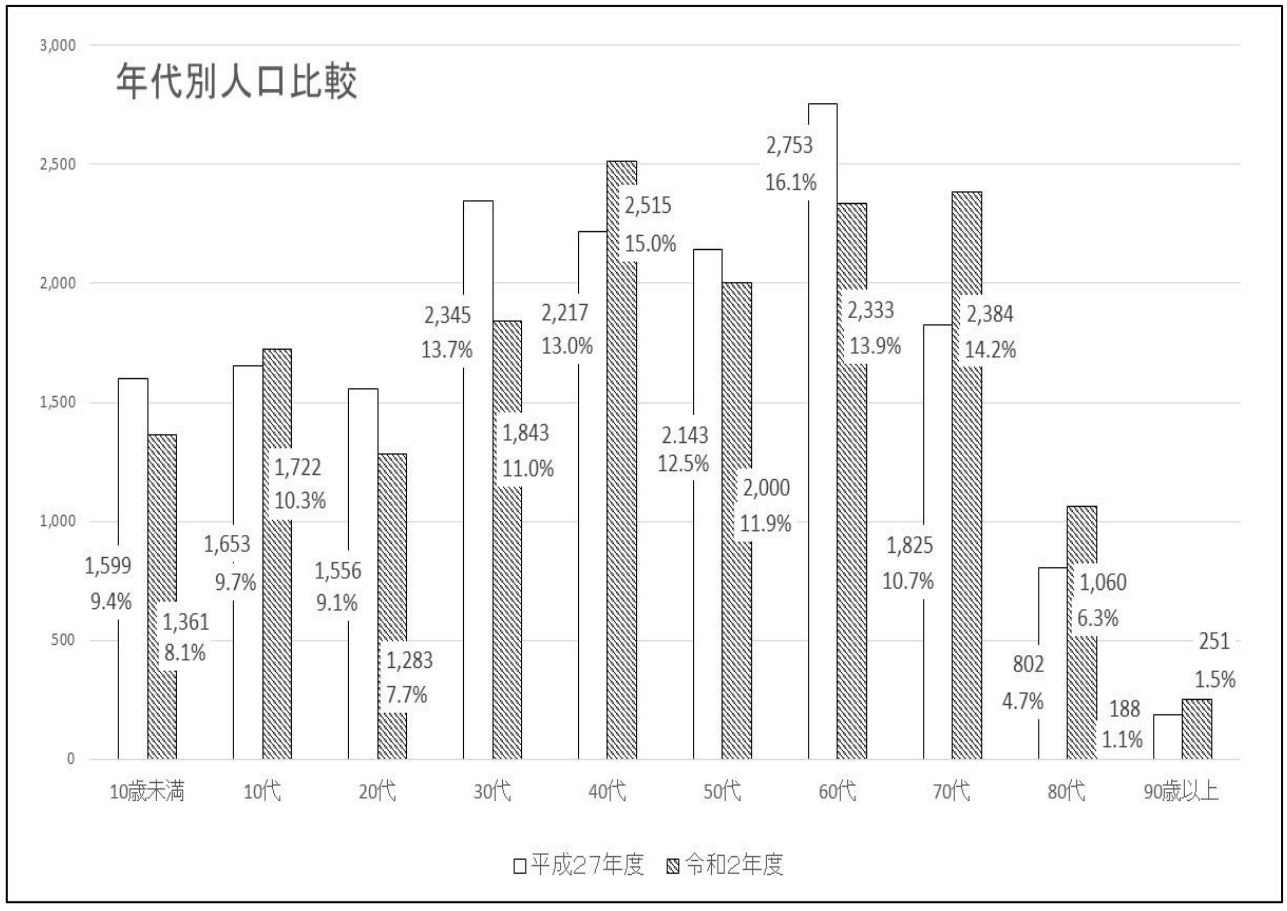
南部地区

南部地区は、昭和50年代の大型宅地開発により移り住んだ方々が多い地区です。このため、平成27年度に最も多かった「60代」の方が、令和2年度には「70代」になり、高齢化が進んでいます。一方で、平成27年度から令和2年度の5年間に総人口が減少する中であっても、「40代」と「10代」の人口も増加していることから、現在の地区内には子育て世帯も多く住んでいることがわかります。

年代	平成27年度	令和2年度
10歳未満	1,599人	1,361人
10代	1,653人	1,722人
20代	1,556人	1,283人
30代	2,345人	1,843人
40代	2,217人	2,515人
50代	2,143人	2,000人
60代	2,753人	2,333人
70代	1,825人	2,384人
80代	802人	1,060人
90歳以上	188人	251人
合計	17,081人	16,752人

※高齢者施設や障がい者施設等の入居者を除く。

資料：地域づくり推進課「自治会別人口集計」



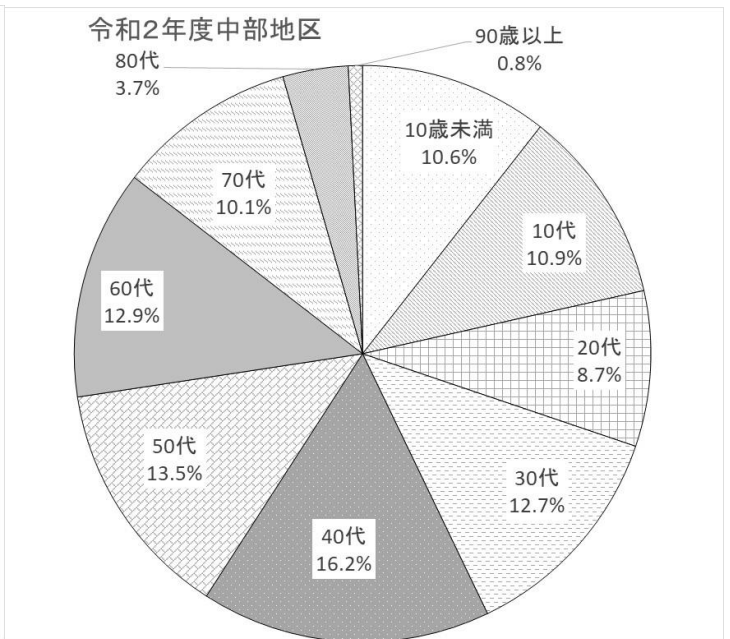
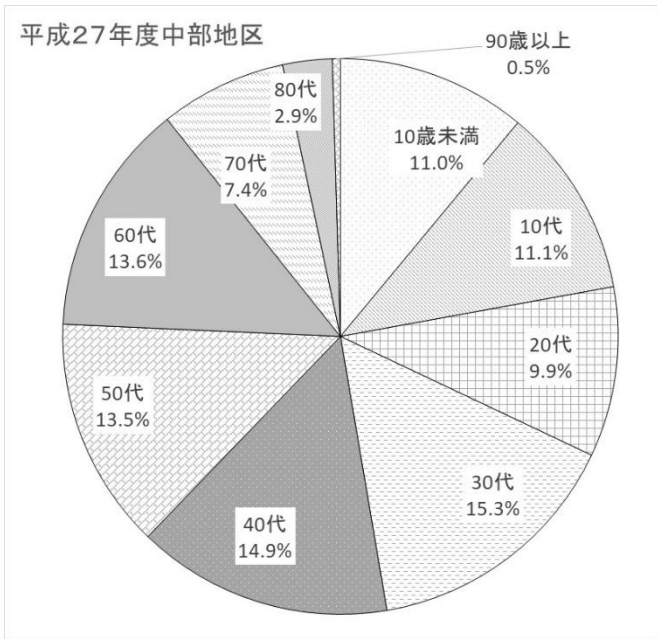
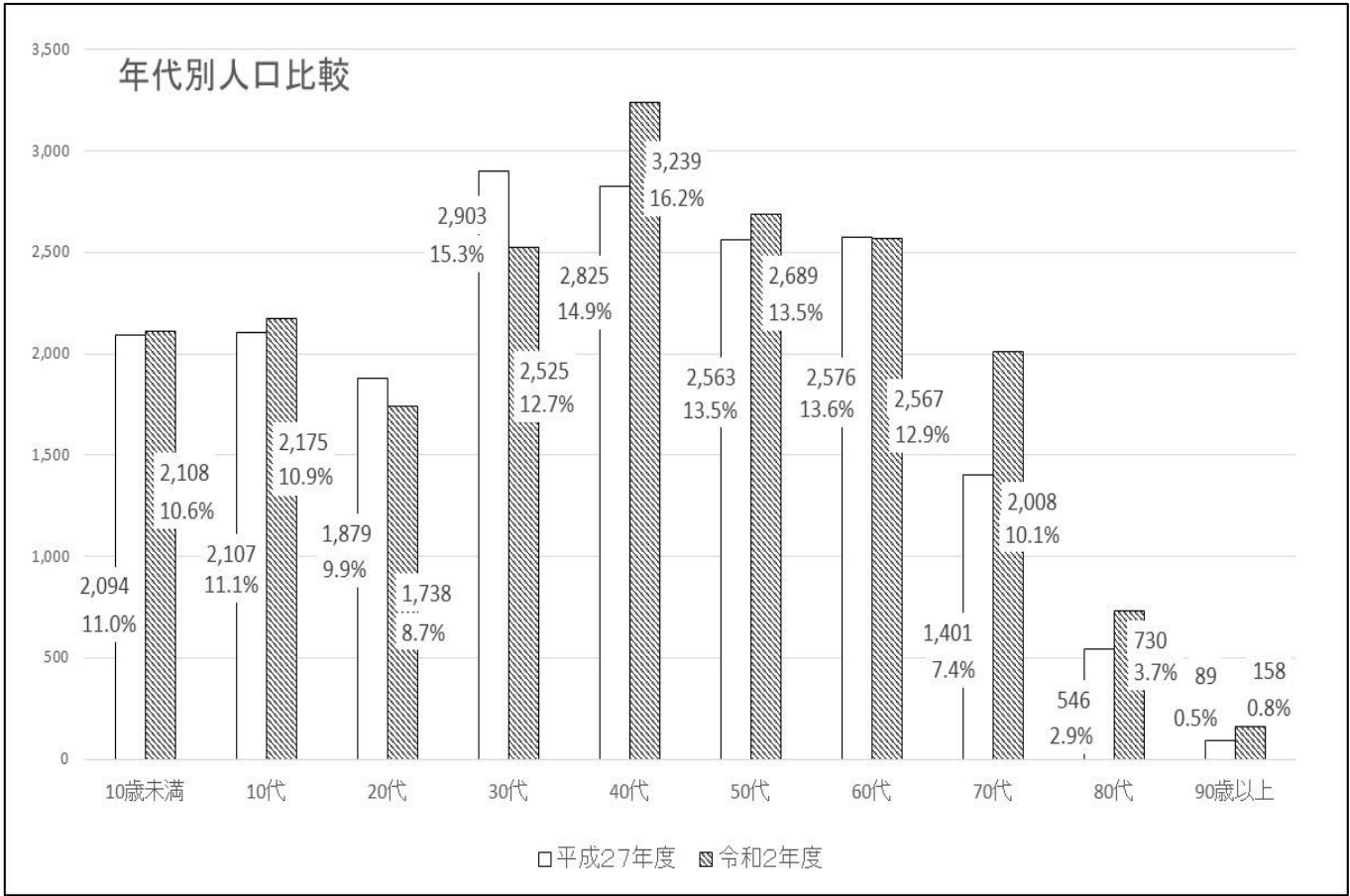
中部地区

中部地区は、この5年間で総人口が増加しています。その中でも特に「10代未満」「10代」と「40代」の人口が増加しています。このことから、多くの子育て世帯が地区内に移り住んだことがわかります。一方で、「70代」も増加しており、地区内の高齢者が増加傾向であることがわかります。

年代	平成27年度	令和2年度
10歳未満	2,094人	2,108人
10代	2,107人	2,175人
20代	1,879人	1,738人
30代	2,903人	2,525人
40代	2,825人	3,239人
50代	2,563人	2,689人
60代	2,576人	2,567人
70代	1,401人	2,008人
80代	546人	730人
90歳以上	89人	158人
合計	18,983人	19,937人

※高齢者施設や障がい者施設等の入居者を除く。

資料：地域づくり推進課「自治会別人口集計」



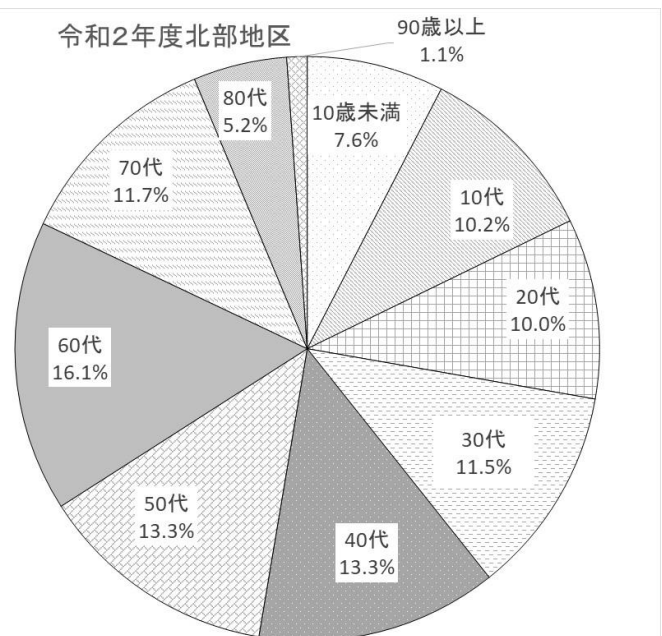
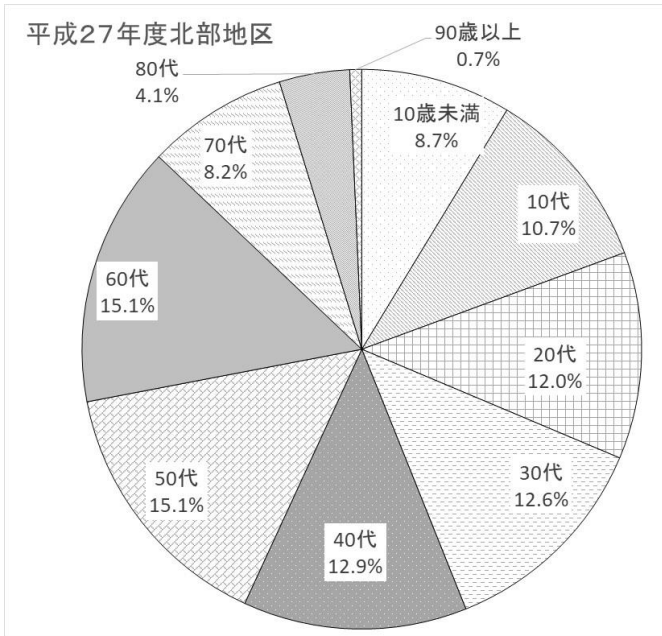
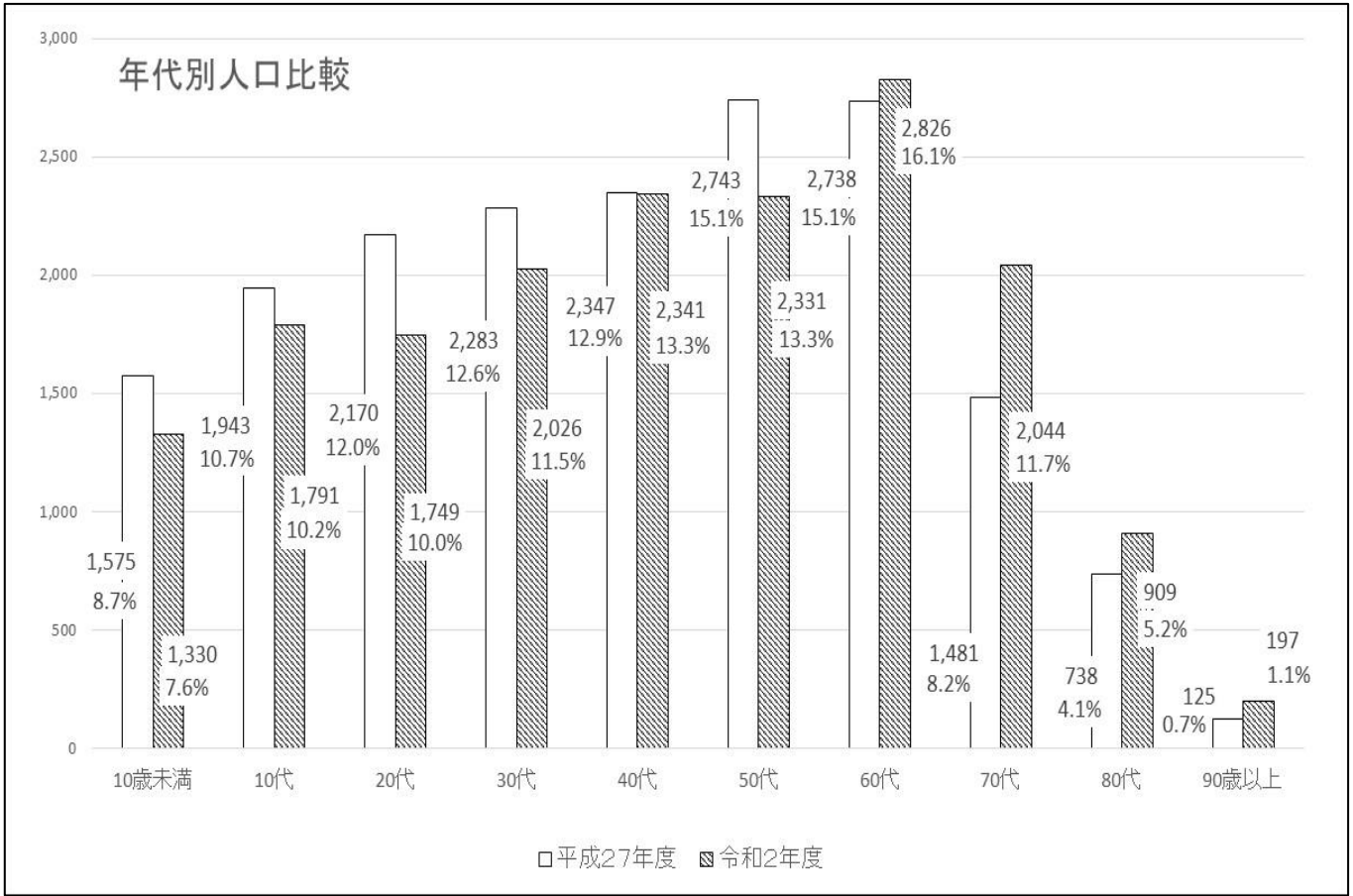
北部地区

北部地区は、この5年間で「50代」以下の世代で人口が減少し、総人口が減少しています。一方で「60代」以上の世代の人口は増加していることから、今後、高齢化が進行していくことが予想されます。

年代	平成27年度	令和2年度
10歳未満	1,575人	1,330人
10代	1,943人	1,791人
20代	2,170人	1,749人
30代	2,283人	2,026人
40代	2,347人	2,341人
50代	2,743人	2,331人
60代	2,738人	2,826人
70代	1,481人	2,044人
80代	738人	909人
90歳以上	125人	197人
合計	18,143人	17,544人

※高齢者施設や障がい者施設等の入居者を除く。

資料：地域づくり推進課「自治会別人口集計」



また、すべての地区で「20代」の人口が減少しており、子ども世代が卒業や就職を機に、滝沢市から他市町村へ転出していることがわかります。